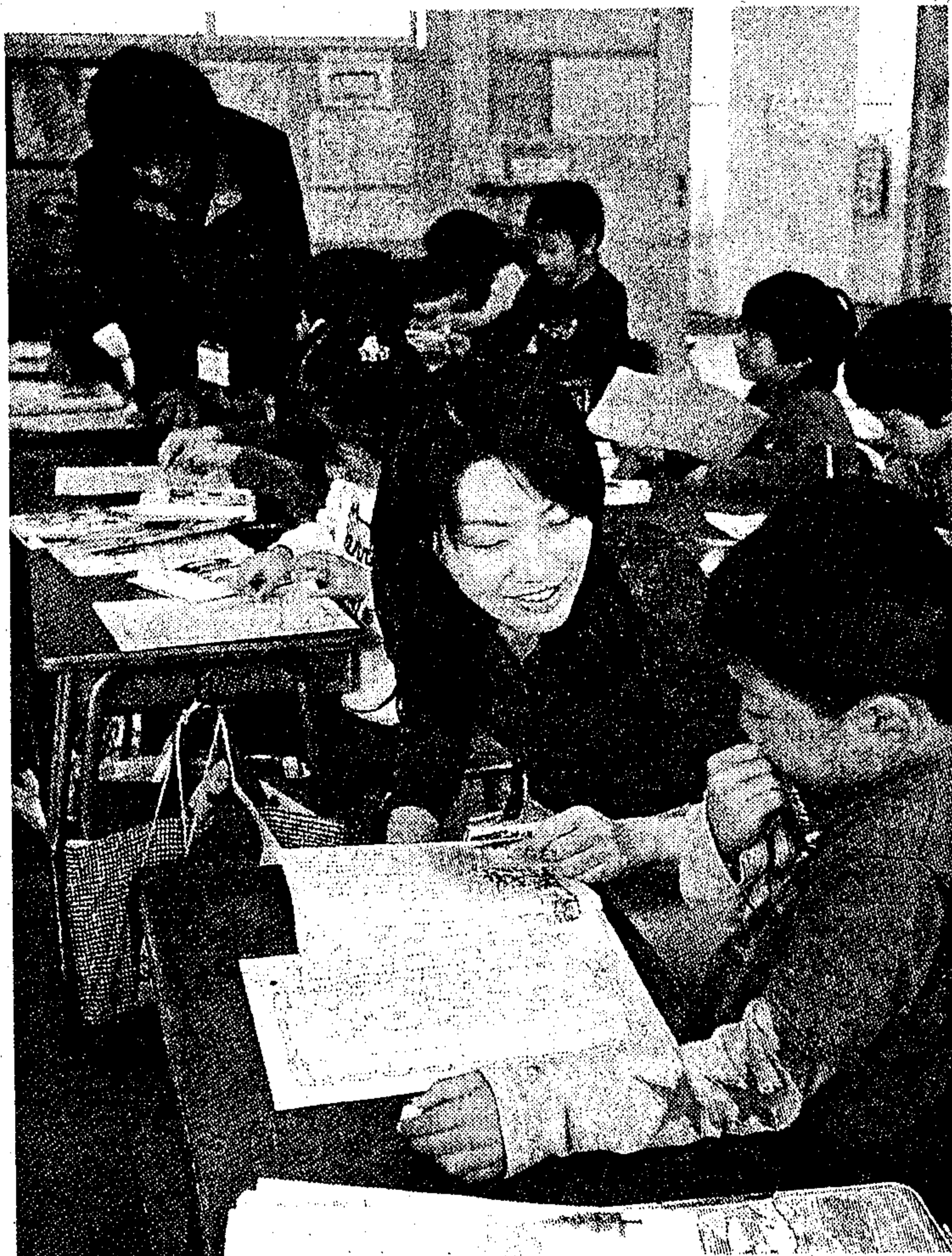


# 地域の人が授業支援

小中学校と地域が連携し、児童・生徒の学習を支援する取り組みが県内で広がっている。新潟市の小学校では地域の人や保護者が教室で子どもたちに目を配り、授業をサポートする。えいを懸念する声もあり、運用面での課題が指摘されている。

## ボランティア制度 県内で成果

### きめ細かい指導で 教師に緊張感生まれる



1年生の国語学習をサポートする地域ボランティア(手前)＝新潟市の笹口小

アの活用を増やしていく予定。大山賢一校長は「地域の人が授業に加わることで教師に緊張感が生まれ、指導力も高まる」とメリットを強調する。

× × ×  
小中学校と地域の連携

が一気に進むきっかけとなったのが、二〇〇二年度が始まった総合的な学習の時間(総合学習)。

科目まで支援する事例は「あまり聞いたことがない」(県義務教育課)という。

笹口小の学習支援ボランティアを務める佐藤貞子さんは「子どもたちの学力を他人に知られたいという保護者たちには制

この授業は地元の歴史や環境問題、職業体験などテーマが多岐にわたる、専門的な知識も求められることから、県内すべての学校で地域の人でつくる支援態勢が設立された。さらに、部活動の指導や行事の雑務など連携

池山康栄課長は「担任一人で教えるより二人の方が効率がいいのは確か。(笹口小の方法を)一つのモデルとして、各校で知恵を絞ってほしい」と話す。

新潟大の長沢正樹助教は「ボランティアに責任を自覚してもらったため研修を開いた方がいい」と提案。「学習や人間関係でつまづいている子どもが多い中、教育現場の人手は足りていない。将来の地域を担う子どもたちの育成に関心を持ってほしい」と話している。

### 個人情報漏えい懸念も

こうした傾向の背景にあるのが、県教育委員会が進める「特色のある学校づくり」。本年度も県教委は重点事項に地域との連携推進を掲げているのであるからだ。

学校はテストの結果など児童・生徒のデータを扱っているため、学校に出入りする地域の人を通じて個人の情報が漏れるのではないかと懸念もあるからだ。

十月下旬、新潟市の笹口小学校。一年生の国語の授業には教師のほかにもう一人、地域の女性が

参加していた。「文章の最後は小さなまる(句点)を書くんだよ」。課題の作文を書いている子どもたちに、女性がそっと近づき優しくアドバイスをする。

同校は二月、学校の活動を手伝ってくれる地域の人や保護者でつくる学

習支援ボランティア制度を創設。これまでに約六十人が登録し、特技や趣味を生かして勉強のサポートや習字の指導、登山

ある母親は「今の子どもは行動範囲が狭い。いろいろな大人とかわる中で多くのことを学んでほしい」と語る。

今後は国語や算数など主要四科目でボランティア

ほい」と話している。